

ソリューションカンファレンス

- Woman Serendipity -

チーフコーディネーター 新潟手の外科研究所病院 風間 清子

イフステージによって、女性は仕事と向き合う時間や取り組み方に変化が伴うと考えられます。また、私達診療放射線技師という職種は、スキルアップが必要不可欠です。スキルアップがあつてこそそのキャリアアップに繋がると考え、第8回東北放射線医療技術学術大会の『Women Serendipity』では、キャリアアップに着目しました。テーマは『自分自身のキャリアアップを考える』とし、スキルアップを含めた自分自身のキャリアアップについて、会場の皆さまと意見交換を行いました。昨年の女性だけの意見交換に対し参加者から高評価を頂きましたが、アンケートにおいて今回は男女一緒に意見交換したいというご意見を受け、今年度は昨年度とは異なり女性男性問わず参加可能といたしました。年代別性別参加状況は、20代から50代までバランスよく参加して頂きました(Fig.1)。Women Serendipityの構成は、演者の方から自身のキャリアアップの考え方・取り組みについてお話していただき、その後、会場の皆さまと意見交換を行いました。意見交換では、会場にマイク係を配置し挙手が無くても参加者の声を拾い上げ、また、コーディネーター及び演者と参加者全体で自由に発言できる場としました。

演者はお二人の方をお願いいたしました。お一人は技師歴7年目でちょうど仕事も面白くなる頃であり、また、人生の中で一つの転換期を考える頃でもある、弘前大学医学部附属病院の中村碧さんにお話ししていただきました。転換期を考えリサーチを行い、ご自分なりの解決の糸口を見つけられ行動に移そうとされているお話は、等身大で率直な思いに溢れていました。もう一人の演者は、これからの東北地域の女性放射線技師の次世代リーダーとして期待されている山形県小国町立病院の伊藤真理さんにお話ししていただきました。就職してから今までご自身が経験

されたことを通じて話されたメッセージは、会場の皆さんの胸を打つものでありました。お二人のお話の後、会場全体での意見交換とアンケートを実施いたしました。

意見交換の中では、育児中だと学ぶ時間の捻出が難しいのでどうしたら作り出せるのかという問いに対し、仕事の合間の隙間の時間を使っていくとか、時には家族に今日は少し勉強するから帰りが遅くなると言って時間を作るとか、習い事をしているという仮定で時間を作るとかの意見があがりました。今回行ったアンケートにおいても、時間の作り方についての悩みがあげられていました。また、時間だけでなくキャリアアップのための資格取得・更新・学会等への参加による金銭面の負担が問題点としてあがっていました。

アンケートの結果より、今回のテーマに関し『良かった』が81%、『役に立った』が71%という参加者からありがたい評価を頂きました。このような場があると学会に参加しやすいので続けてくださいというご意見も頂きました。今後取り上げてもらいたいテーマや内容に対する問いについて、同じようなテーマや、女性が産後も働きたいと思う職場作りや、育児中の休み・職場の理解の得方や、産休明けの復帰プランなどの要望が寄せられ、来年度もソリューションカンファレンスWomen Serendipityの果たす役目があると実感いたしました。ぜひ仙台でも開催できるよう実行委員の皆さまにお願い申し上げます。昨年度報告が諸事情により出来なかったことをお詫びいたします。昨年度報告は第34回日本放射線技師会学術大会で発表しましたPDFがありますので、ご希望の方は風間kazakiyo@tenogeka.comまでご連絡ください。

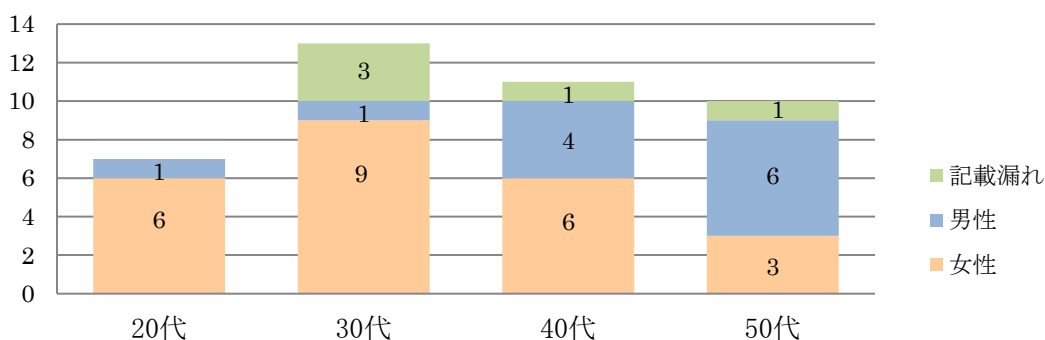


Fig.1 年代別性別参加状況